

歴博 暮らしの植物苑だより

第93回暮らしの植物苑観察会 9月23日(土) 13:30～ 暮らしの植物苑

『柿の民俗』 常光 徹 (本館研究系 民俗研究系)

第10回日本の植物文化を語る 10月28日(土) 13:30～ 本館講堂

『栗の文化・漆の文化—アジアの中の縄文文化』 山田昌久 (首都大学東京)

暮らしの植物苑の活動 毎月第4土曜日 13:30～

奇数月：暮らしの植物苑観察会 暮らしの植物苑

偶数月：日本の植物文化を語る 本館講堂

暮らしの植物苑今週の見どころ <http://www.rekihaku.ac.jp>

暮らしの植物苑だより トピックと見どころ

伝統の古典菊 10月24日(火)～11月26日(日)

暮らしの植物苑で保存されている、嵯峨菊9、伊勢菊11、肥後菊30、江戸菊28、奥州菊10品種、を約300鉢の鉢植えにして東屋のまわり、よしず展示場、畑温室に展示いたします。

菊は古典植物の中でも古く、奈良時代には一連の唐文化とともに伝わり、宮廷の貴人達に珍重されました。展示では、嵯峨天皇が好んだ菊の系統を持つといわれ、花弁が細かく直立する嵯峨菊。それが伊勢の松阪に伝わり、江戸時代には独特の垂れ咲きの花形をもつ伊勢菊。花弁がきわめて少なく、武士道の園芸でもある肥後菊。花が開花するに従い、狂いといって花がさまざまに変化していく(芸をする)江戸菊など古典菊の世界をお楽しみいただけます。



栽培準備場で5号鉢の準備



畑温室で7号鉢の準備

シオン (キク科シオン属)

山地の湿草原に生える多年草。藤紫色の頭花を散房花序でたくさんつける。古くは平安時代から庭植えにして、観賞されていたといわれている。茎は長く伸びるが、丈夫で支柱を立てる必要がない。根を煎じて鎮咳、去痰に利用される。



フジバカマ (キク科ヒヨドリバナ属)

川や堤防にはえる多年草。奈良時代に中国から伝来してきたといわれ、帰化植物と考えられている。生乾きのときにクマリンの良い香りをだす。秋の七草の一つです。



ソバ (タデ科ソバ属)

三角形に近い葉と、子実は3稜の三角錐となる。ソバは生育期間が短く、8月17日に播いたものです。花卉のように見えるのは5枚の白い萼片で、ほかに1本のめしべとおしべです。花は長花柱花と短花柱花があり、自家不稔性で、実をつけるためには両花が交雑する必要があります。



アイ (タデ科タデ属)

藍色の染料をとるために栽培される、1年草。藍の染料はこの他、リュウキュウアイ、インドキアイなどがある。区別してタデアイと呼ぶことがある。花梗の先端に白い小花を穂状につける。花梗の出る頃がインジコと呼ばれる染料が一番多い。生葉染め、発酵させた藍玉をもちいた藍染めが行なわれる。



エゴマ (シソ科シソ属)

シソの変種で、葉は普通、緑色で、シソよりも大きい。茎頂に多数の花を穂状につける。花は唇形で上唇は浅く3裂し上に反り返り、下唇は深く2裂し内に曲がる。種子は油をふくみ、荳油(えのゆ)をとる。

